

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を目指し、児童間の多様な対話を通して思考を深める指導の工夫に取り組む。	中間評価	・主に校内研究において授業改善を進めている。今後、より思考を深める指導の工夫が必要である。	最終評価	・多様な場面での対話的な学びを作り出すことはできるようになってきた。今後、質を高める手だての検討が必要となる。
環境作り		・個別の支援の更なる充実を目指し、健全育成委員会を中核とした組織の取組内容を検討する。		・毎週の生活指導夕会を組織的・計画的に実施することで情報共有を図ることができている。		・個別の支援の充実に、組織的に取り組むことはできた。継続支援が必要な児童の引き継ぎを十分に行うようにする。

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）	
1	国語	学 声の大きさを意識して、音読したり、話したりすることができるようになってきた。 学 好きな場面を見つけて、読むことができるようになった。 学 平仮名を覚えて書けるようになった。短文を書くことに慣れてきた。	・伝える相手を意識して、話すことに課題がある。 ・大事なことを落とさずに聞くことに課題がある。 ・登場人物の気持ちを想像し、言葉の意味を正しくとらえて文章を読むことに課題がある。 ・正しく文字を書いたり、促音や拗音を正しく表記したりすることに課題がある。	・ペアやトリオでの対話や話し合いを多く取り入れる。 ・気持ちを想像しやすくするために、吹き出しやワークシートを工夫する。 ・片仮名や新出漢字の練習を丁寧に行う。家庭と連携し反復練習を行う。	・話し合い活動を通して、自分の考えを言語化できるようになった。話し合いの機会を多くし、話し手の方を向いて聞くルールを浸透させることにより、相手を意識して話す・聞くことができるようになってきた。 ・吹き出しやワークシートの活用により、登場人物の気持ちを想像したり、文章の順序を理解したりすることができるようになってきた。 ・家庭学習に確実に取り組むことがで、正しい平仮名、片仮名、漢字の定着を図ることができた。促音や拗音も正しく表すことができるようになった。	
	算数	学 1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算ができるようになった。	・計算に時間がかかる児童への効果的な対応を考える必要がある。 ・何を問われているかを理解できない児童への効果的な対応を考える必要がある。	・授業の始めや、家庭学習で、計算プリントに取り組ませる。 ・視覚的に分かりやすくしたり、個別指導を行ったりする。	・基本的な加法や減法が定着した。 ・ICTを活用して、問題場면을視覚的に提示したことが、問題の理解につながった。具体物を用いて説明したことも効果的だった。	
学年	教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学 ペアでの対話を取り入れたことにより、自分の考えに自信が持てるようになった。話し合いの機会を多くし、話し手の方を向いて聞くルールを浸透させることにより、相手を意識して話す・聞くことができるようになってきた。 学 ワークシートの活用により、登場人物の気持ちを想像したり、文章の順序を理解したりすることができるようになった。 学 家庭学習を確実にすることができた。反復練習により正しい平仮名、片仮名、漢字の定着を図ることができた。	・順序を意識しながら書いたり話したりする力を育てる必要がある。 ・物語文については、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力を育てる必要がある。	・順序を表す言葉に着目して読んだり、構成カードを用いて書いたりすることで、順序を意識することができるようにする。 ・言葉に着目して読み広げ、想像したことを書き込みながら読み深められるようワークシートを工夫する。	・順序については、説明的文章を時間や場面などを表す言葉に着目して読み、発表の文章構成を適切な順序で考えられるような手立てをとっている。 ・物語文については、ワークシートに想像したことや、文章から読み取れる内容を書き込めるようにし、登場人物の気持ちを想像できるよう指導してきた。これからも継続していく。	・順序を表す言葉に着目して読む習慣が付いた。書く場面でも、話す場面でも、順序を考えて表現できるようになった。 ・ワークシート等を活用し、想像したことや文章から読み取れる内容を書き込む活動を継続した結果、言葉から楽しく想像することができるようになった。
	算数	学 毎日計算に取り組むことで計算が定着してきた。 学 ICTを活用して、問題場면을視覚的に提示したことが、問題の理解につながった。	・加法、減法の意味を理解し、問題場面や式の意味を理解する力を育てる必要がある。	・具体物の操作や図で表現する活動を通して、加法、減法の意味を理解させる。	・具体物の操作によって、3 位数の加法、減法の意味を理解し、適用できるようになった。 ・具体物の操作や図で表現する活動を通して、乗法の意味を理解させる。	・具体物の操作により、加法、減法の意味を理解することができた。計算の習熟に関しては、個人差が見られることが課題である。 ・具体物の操作や図で表す活動を通して、情報の意味を理解することができた。計算の習熟に関しては、個別指導を行っている。
3	国語	学 話型の提示により、話題から外れずに話すことができるようになってきた。 調 「話す・聞く能力」の正答率が、目標値を 1.8 ポイント上回った。 調 「読む能力」の正答率が、目標値を 3.8 ポイント下回った。	・物語を読む上で、作品全体について理解しようとする態度を育成することが重要である。 ・定められた字数で文章を書くことが苦手の児童が見られる。	・文学的な文章を読む際には、登場人物の様子を思い浮かべられるよう発問を工夫する。 ・文章を書く活動に際しては、書く目的をはっきりさせ、誰が読むのかという相手意識をもつように指導する。 ・日頃から、まとまりのある短い文章を書く機会を増やし、書くことに慣れさせる。	・物語の学習では、登場人物に吹き出しをつけたワークシートを用意する等、登場人物の思いを想像しやすい手立てをとってきた。お互いの考えを発表し合い、自分の考えをさらに深められるようにしている。 ・書くことについては、相手意識や目的意識をもたせ、取り組ませてきた。書くことへの抵抗は減ってきたが、個人差がかなりあるので、個別指導が必要である。	・読み取ったことをもとに自分の考えを書く時間を確保することで、物語の内容理解が深まった。 ・書く学習では、相手意識と目的意識をはっきりさせて活動に入るようにした。構成メモを活用するなど段階的に指導することが有効だった。 ・毛筆指導を 60 分、週一回程度、実施してきたことで、字形が整うようになってきた。
	算数	学 問題提示の場面で、積極的にプロジェクターを活用したことで文章題への苦手意識をもつ児童が減り始めている。 調 「数学的な考え方」の正答率が、目標値を 1.9 ポイント上回った。 調 「算数への関心・意欲・態度」の正答率が、目標値を 1.5 ポイント下回った。	・長さ、かさについて、単位相互の関係を十分に理解させる必要がある。 ・1 つ分の数×いくつ分＝全体の数、という乗法の意味を理解させる必要がある。	・単位の換算の練習だけではなく、実際に 1 dL が 10 杯分で 1 L になる経験などを、十分に積ませる。 ・乗法の文章問題をつくったり、文章問題を図で表したりする活動を通して、乗法の意味をきちんと定着させる。 ・九九については、繰り返し演習を行わせることにより、確実に習得させるようにする。	・算数習熟度別指導において、児童の実態に合わせて既習事項の確認を行っている。現時点で数値としての結果は出ていないが、少しずつ自信がついてきたことで、意欲が向上している。今後も継続していく。 ・習熟度別指導では、発展コースでは発展問題を、補充コースでは実物を用意したり適用問題を多く準備したりして、個に応じた指導を意識している。ただ、まだ九九が身に付いていない児童もいるのでくりかえし練習することが必要である。	・図や言葉を使つての説明を重視した指導を行ってきたことで数学的用語や式の意味などの理解が深まってきている。課題であった「長さやかさの理解」「乗法の意味の理解」についても図や言葉で再度、捉えなおしたことで理解できるようになってきた。 ・既習事項の確認や発展問題など、コースによって指導方法を変えることで、個に応じた指導をすることができた。

4	国語	【学】毛筆指導を60分週一回程度、コンスタントに実施してきたことで課題あった筆順だけでなく、字形も整うようになってきた。 【調】「話す・聞く能力」の正答率が目標値を9.3ポイント上回った。 【調】「書く能力」の正答率が目標値を3.1ポイント下回った。	・国語辞典で言葉を調べる際に、五十音順の配列が理解できていないために、時間のかかる児童がいる。 ・伝える相手や目的を意識した文章に課題が見られる。	・日頃から、例を挙げて調べさせたり、辞典引き競争や五十音並べ替えゲームをさせたりすることを通して、楽しく辞典の仕組みを理解させる。 ・各教科及び、行事等とのつながりを意識した横断的な学習を通して、必然性をもって書くよう学習を工夫する。	・漢字辞典の使い方の学習を通して、再度、五十音順の配列を確認した。その他の単元においても日常的に辞書を使うよう声掛けをしている。 ・「よりよい話し合いをしよう」、「新聞をつくろう」、「自分の考えをつたえるには」などの単元で社会科、総合的な学習の時間、道徳との合科、関連の工夫を取り入れた。	・横断的な学習を意識して進めることで、比較的抵抗感なく、書くことに取り組むことができた。 また、目的意識や必然性をもてるよう単元構成をしたことで、相手意識をもって考えることができるようになってきた。 ・書くことに関しては、教科横断的に取り組んだことで意欲的になり、内容的にも多く書けるようになってきた。教育活動全体での取組が必要である。今後も継続した指導ができるよう、校内で横断的な学習の考え方を共有する必要がある。
	算数	【学】習熟度別指導の中で、図や言葉を使つての説明を重視したことで問題解決のプロセスを論理的に考えてまとめようとするようになってきた。 【調】観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達しており、特に「算数への関心・意欲・態度」が目標値を6.4ポイント上回った。	・作図道具のしくみや数学用語を十分に理解できておらず、半径と直径を混同してしまうなどの間違いが見られる。 ・計算問題で、けた数が増えると、位がずれる、繰り上がりの数を大きく書きすぎて加数と混同するなどの間違いが起きることがある。	・引き続き、図や言葉を使つての説明を重視することで、道具の仕組みや用語の意味を言語化して理解できるようにする。 ・ノートのまとめ方やプリント等の見直しを通して、問題解決の手順を丁寧にまとめる指導を意識して取り入れる。	・どの単元でも図や言葉を使つての説明を頻繁に取り入れ、意味を考えて言語を使う習慣を目指している。 ・文章問題に対し、問題の意味を正しく理解できていない児童が見られる。算数の授業はもちろんであるが、教科横断的な視点で読解力の向上を目指していくようにしたい。	・数学用語を意識して使うよう投げ掛けたり、何気なく使っている数学用語の意味について言語化したりする場面を意図的に取り入れることで、単に解き方だけでなく意味を理解することができるようになってきている。 ・読解力に課題がある児童に、国語科を中核とし、算数でも読解を意識した指導を行ったことで、少しずつ課題を捉えることができるようになってきた。
d5	国語	【学】国語の読み取りでは、赤と青と黒の色分けをして読ませることで、正しく読みとりができるようになった。 【調】「話す・聞く能力」の正答率が、目標値を11.1ポイント上回った。 【調】「書く能力」の正答率が、目標値を4.5ポイント下回った。	・適切な段落構成を考えたり、文章を2段落構成で書いたりすることが苦手な児童が見られる。	・段落は一つの事柄・話題とそれに関する一つの考え・意見・感想などで構成することを、基本的な「型」として習得させ、段落意識をもたせるような指導を工夫する。	・物語文、説明文において、段落を意識することで、物語の場面の状況を把握したり、段落の前後から読み取ろうとしたりするとはできてきた。書くことにおいて、段落を意識して書く力へ繋げられるよう指導している。	・物語文、説明文において、段落を意識することで、場面の状況を把握したり、段落の前後から読み取ろうとしたりすることができるようになった。 ・段落を意識して文章を書ける児童が増えた。
	算数	【学】分かったことや学んだことを振り返る時に、自分の言葉で書かせ、次時に振り返ることで、学習が定着し、分かりやすく説明できるようになった。 【調】「算数への関心・意欲・態度」は、目標値と同等であった。 【調】「数量や図形についての知識・理解」の正答率が、目標値を4.6ポイント下回った。	・「以上」「以下」、「未満」などの用語の意味があいまいで、四捨五入を間違ってしまうことがある。 ・けたの大きな筆算になると、位のずれや、繰り下がりの間違いが多くなることがある。	・数直線をかいて考えることを繰り返し、具体的な数を取り上げて検証させるような活動を取り入れる。 ・操作と形式的な筆算とを結び付けながら指導し、筆算の意味を理解できるよう、授業展開を工夫する。	・具体的な活動を通して、算数的活動に意欲的に取り組む姿が見られた。図や文を使い、自分の言葉で説明する場面を行うことで、操作と形式的な筆算を結び付けることの活動を今後も継続して行う。 ・学力の個人差がかなりある。習熟度別指導の中で、授業展開を工夫する。	・具体的な活動を通すことで、算数的活動に意欲的に取り組むようになった。 ・図や文を使って説明する場面を行うことで操作と式を結び付けて考えることができるようになり、位のずれや、繰り下がりの間違いが減ってきた。
6	国語	【学】繰り返しの作文指導により、3段落構成の文が書けるようになってきている。主語、述語、修飾語なども適切に使うことができてきた。 【調】観点別に見ると、すべての項目で目標値に達しており「書く能力」の正答率が、目標値を10.6ポイント上回った。	・文章の内容を読み取る際、文章全体を基に考えなくてはならないなど、文の前後を基に考えるだけでは解けない問題に間違いが見られる。	・問いと答えを意識しながら文章全体の内容を理解して、問題を解いていく習慣を身に付けさせるようにする。	・文章構成がどのようになっているのかを明確にすることができてきた。段落を意識して読むこと、文の前後を基に考えて読み取ることを留意している。 ・書く能力の正答率を上げるために、その都度間違え直しを実施することと、繰り返し書き取りを指導している。	・文章の全体を把握し、その構成について捉えられるようになってきた。 ・語句と語句との関係に気を付けること繰り返し指導することで、書くことだけでなく、会話でも正しく使うことができるようになってきた。
	算数	【学】習熟度別指導の効果がよく発揮されてきた。基礎・基本の定着を図ることと、自分の力で課題解決を図ることができるようになった。 【調】観点別に正答率を見ると、「算数への関心・意欲・態度」が目標値を8.4ポイント上回った。 【調】「数量や図形についての技能」の正答率が、目標値を1.2ポイント下回った。	・小数点の位置の間違いなど、計算技能について、個々の児童のつまずきの原因を探り、個に応じた指導を行う必要がある。	・計算問題では、答えの見通しをもたせてから計算させることや、答えが問題場面に適した値かどうかを常に考えさせるよう指導する。	・学力の差が顕著になっている。習熟度別指導の効果が上がるように、人数バランスや指導内容をさらに吟味していく。 ・思考力は高まりがみられる。一つの考えにとどまらず、友達の良い考えも取り入れながら多角的に考えることができてきている。	・算数少数人数習熟度別学習のグループ編制を工夫したことで、個に応じた指導ができるようになった。 ・問題を既習事項と関連付けて考えることができる児童が増えた。また、友達との対話的な学びを繰り返すことで、新しい問題と出合った際に学び合いで生まれた新たな解法を試す児童が増えた。
音楽	【学】グループでの活動や発表を通して表現の工夫や良さに気づき、自分の表現を豊かにしていくことにつながった。		・自分の思いや意図、自信をもって表現することが、苦手な児童が見られる。	・一人一人が学習の見通しをもち、互いの表現を認め合えるような学習を意識して行う。自他の違いや共通点に気づき、それを自分の表現につなげられるよう、声掛けする。	・表現を工夫することや自分や友だちの良さに気付くことができる場面が見られることが多くなってきた。個に応じた指導も継続して行う。	・自己評価や学習感想、発表を通して友達の良い表現の良さに気づき、それらを取り入れることで、より意欲的、自主的な態度が多く見られるようになった。
図工	【学】鑑賞のポイントをおさえ、よさや違いを感じさせる場面を増やすことにより、個人の表現にいかせるようになってきた。		・自分に自信がもてず、根気強く活動に取り組めない児童が見られる。	・根気のない児童に声を掛け意欲付けをしたり、教材等の工夫で興味関心を引き付けたりするなど個に応じた指導を取り入れる。	・発表の場をもつことで、意欲がでてきた。より良い作品をつくろうと根気強く取り組みだした。個に寄り添って表現方法を考える手助けをして、さらに意欲付けを行う。	・発表の場を見合い、互いに認め合う関係ができたことで、児童が自己肯定感をもち、意欲的に取り組む姿が多く見られるようになってきた。
特支	【学】特別支援教育コーディネーターや、特別支援教室専門員が、日頃から児童の様子や対応について共通理解したり、話し合ったりすることで、担任の特別支援教育に対する理解が深まった。		・教職員の特別支援教育のより一層の理解を深めるために、担任と巡回教員との連携を強化しなければならない。	・特別支援教室専門員と健全育成委員会が中心となり、担任と巡回教員をつなげるための仕組みを強化する。	・健全育成委員会が中心となつて行う夕会で、児童の実態や対応について、巡回教員が発表する場ができた。 ・必要に応じて、児童個々について対策会議を開催し、管理職を中心として対応を検討し、実施していくことができた。	・健全育成委員会が中心となり、児童の実態や対応についての情報共有ができた。 ・必要に応じて対策会議を開催することにより、対応が迅速になった。

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。